

目をこらして (13)



遊戯室で積み木の片付けをしていた時のこと。

「がもんくんはいつも片付けしないんだから……」という
非難の声があがった。「そうだそうだ」と同調する子と、
「がもんくんだってやるうとしているのよ」とかばう子の
両方が出てきた。

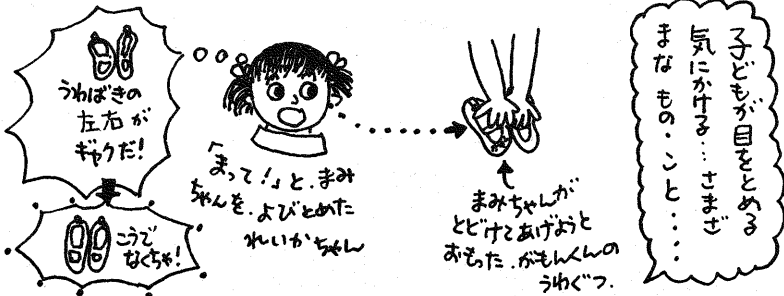
当事者ではない気楽さからか、子どもたちは当人そっち
のけで、「この前だって……」「でもね……」と口々に話し
出した。がもんくんはちよつと困った顔で積み木の間のス
ペースに入り込んでみんなの様子を見ていた。

七、八名が熱心に言い合いをしていた。その中の一人の
まみちゃんが、がもんくんの上靴が遊戯室の真ん中に置き
たままになっているのに気付いた。

まみちゃんは、がもんくん擁護派だったので、これはか
わいそう！ と思ったのか、上靴を取りに行き彼の所へ届
けようとした。その時だ。

みんなの言い合いには加わらず、一人せつせと積み木を
片付けていたれいかちゃんが「待って！」と叫んだのだ。

まみちゃんは、「え？」という顔で立ち止まった。





耳をすまして

何？ れいかちゃんが上履きを届けたっていうの？
と思っっているような少し困った顔のまみちゃんだった。
するとまたれいかちゃんが言った。

「ちがうの。靴の向きがちがうの！」

彼女は、まみちゃんが持っている上履きが左右逆になっ
ていることを注意したのだった。

まみちゃんは、「ああ」という顔で左右を直し、改めて
「がもんくん上履きあつたよ！」と言って走り出した。

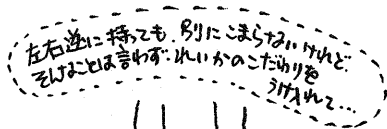
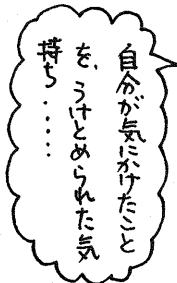
れいかちゃんはそれを見届け、安心したように片付けの
続きを始めた。

*

これは一瞬の出来事。上履きの左右が逆になっているこ
とにこだわる子がいる。そのこだわりを「ああ」と当たり
前に受け止める子がいる。子どもはこうして生きている。
それぞれに違う何かにこだわっている。

それぞれのこだわりを知りたいと、今日も私は耳をすま
す。目をこらす。

絵と文 宮里暁美 (目黒区立ふどう幼稚園)



「あっそう！」と、まみちゃん、
左右を持ち直した。まみちゃん。